

メルボルン図書館訪問記

西, 真里恵
九州大学附属図書館e リソース課e リソース管理係

宮崎, 祐汰
九州大学附属図書館学術サポート課学習・研究支援係

<https://doi.org/10.15017/6796172>

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2022/2023, pp.14-23, 2023-09-01. Kyushu University Library

バージョン：

権利関係：Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International



メルボルン図書館訪問記

西 真里恵[†] 宮崎 祐汰[‡]

【抄 録】 オーストラリアのメルボルンに所在するメルボルン大学図書館、ビクトリア州立図書館、メルボルン市立図書館の3館について、現地を訪問し、見聞したことを紹介する。

【キーワード】 オーストラリア、メルボルン、メルボルン大学図書館、ビクトリア州立図書館、メルボルン市立図書館

Visit to Libraries in Melbourne

NISHI Marie MIYAZAKI Yuta

1. はじめに

筆者らは、用務に伴い、2023年2月26日から同年3月2日にかけてオーストラリアのメルボルンを訪れた。

メルボルンは、オーストラリア南東部に位置するビクトリア州の州都であり、ニューサウスウェールズ州の州都シドニーに次ぐ人口を誇る国内第2の都市として知られる。また、住民1人当たりの読書量がオーストラリア国内で最も多く、その読書文化・出版文化の豊かさからユネスコ・創造都市ネットワークの文学都市として認定されている¹。

この機会を活かし、メルボルン市内に多数ある図書館のうち、メルボルン大学図書館、ビクトリア州立図書館、メルボルン市立図書館の3館を訪問した。本稿はその記録である。

2. メルボルン大学図書館 (University of Melbourne Library)²

2月27日、メルボルン大学図書館の1つベイルー図書館 (Baillieu Library) を訪問した。

2.1. 概要

メルボルン大学³は1853年に設立され、学生53,000人 (FTE 換算)、教員5,000人 (FTE 換算)、大きく分けて9分野の専攻⁴を擁するオーストラリア屈指の公立総合大学である。メインキャンパスで

[†] にし まりえ 九州大学附属図書館 e リソース課 e リソース管理係
(〒819-0395 福岡市西区元岡744) E-mail: nishi.marie.551@m.kyushu-u.ac.jp

[‡] みやざき ゆうた 九州大学附属図書館学術サポート課学習・研究支援係
(〒819-0395 福岡市西区元岡744) E-mail: miyazaki.yuta.861@m.kyushu-u.ac.jp

1 Melbourne - City of Literature <https://cityofliterature.com.au> (最終閲覧日2023年8月4日)

2 University of Melbourne Library <https://library.unimelb.edu.au> (最終閲覧日2023年8月4日)

3 University Annual Reports – The University of Melbourne <https://about.unimelb.edu.au/strategy/annual-reports> (最終閲覧日2023年8月4日)

4 Faculties – The University of Melbourne <https://about.unimelb.edu.au/strategy/our-structure/faculties-and-graduate-schools> (最終閲覧日2023年8月4日)

あるパークヴィル・キャンパス (Parkville Campus) は、メルボルンの中心部にあたるビジネス街から徒歩数分のエリアに位置し、南北1.4km、東西600mの広大な敷地を有する。

メルボルン大学図書館⁵は、学内6キャンパスに所在する11館で構成されており、非常勤職員を含む250人の図書館職員を擁している。利用者数は、学生65,000人 (ヘッドカウント)、教職員15,000人 (ヘッドカウント) である。蔵書数は、紙媒体と電子媒体を合わせて380万点である。

ベイルー図書館はパークヴィル・キャンパスに所在し、人文社会科学分野の資料を中心に所蔵している。貴重資料を含む特殊コレクション⁶や、メルボルン大学アーカイブ (The University of Melbourne Archives)⁷も所蔵している。

Kylie Tran 氏 (Manager, Library Services and Spaces) が対応の手配をして下さり、図書館サービスの概要、電子ジャーナル契約の状況、東アジアコレクションについてお話を伺った。その後、ベイルー図書館内を案内していただいた。

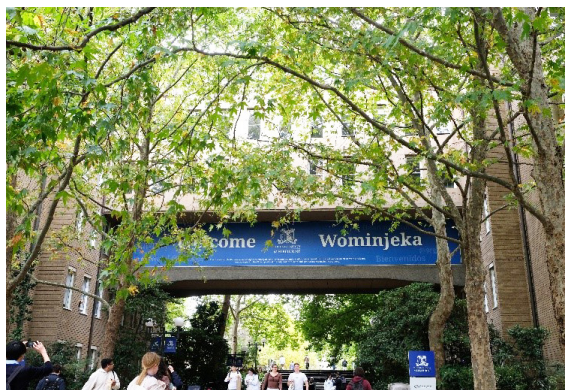


図1 メルボルン大学。英文の横にアボリジニの言語でも Welcome の意が併記されている。



図2 ベイルー図書館正面玄関。どことなく日本の国立大学図書館に似た雰囲気。

2.2. 図書館サービスの概要

Kylie Tran 氏がお話をして下さいました。

2022年の図書館サービスの実績の概要は、入館者数153万人、対面による質問対応件数⁸ 37,300件、図書館チャット対応件数8,534件である。新型コロナ禍以前に比べて、物理的な貸出、入館、問合せは減少している。

新型コロナ禍中の2022年において、ベイルー図書館は、キャンパス内で勉強する場所を必要とする学生のための安全な学習スペースとして開館した。ビクトリア州政府による COVIDSafe プランに則り、マスクの着用、物理的な距離の確保、密度制限を含む COVIDSafe ガイドラインを施行した。職員の人員配置は新型コロナ関連の病気や欠勤により深刻な影響を受けた。

メルボルン大学図書館では、各学部に対応する形で学問分野ごとに、リエゾン・ライブラリアンのチームが編成されている。チームが、2022年にサポートした科目の75%がコア科目、必修科目、キャップストーン科目⁹であった。サポートの90%がオンライン又はハイブリッド形式での対応であった。大学院生に対するサポートが58%、学部生に対するサポートが29%を占めていた。

5 メルボルン大学図書館の基本的な情報は、2016年時点の情報ではあるが、次にまとめられている。A Year in the University Library 2016 https://library.unimelb.edu.au/_data/assets/pdf_file/0004/2634034/18359-AcaSer-UniLib-Year-in-the-Uni-Library-8pp-A4-Bro11_web.pdf (最終閲覧日2023年8月4日)

6 Collections - University of Melbourne Library <https://library.unimelb.edu.au/asc/collections> (最終閲覧日2023年8月4日)

7 Archives - University of Melbourne Library <https://library.unimelb.edu.au/asc/collections/archives> (最終閲覧日2023年8月4日)

8 第1セメスター及び第2セメスターのみ。第1セメスターは、2022年2月28日(月)～5月29日(日)、第2セメスターは、2022年7月25日(月)～10月23日(日)。

9 FAQ / Different types of subjects - ask.unimelb <https://ask.unimelb.edu.au/faq/6101/different-types-of-subjects/> (最終閲覧日2023年8月4日)

2.3. 電子ジャーナルの転換契約

Zachary Kendal 氏 (Scholarly Communications Consultant) がお話をして下さいました。

メルボルン大学図書館は、オープンスカラシップについてのウェブページ¹⁰を作成して、オープンアクセス (以下、OA)、オープンリサーチ、オープン教育資源についての情報提供・周知に力を入れ、推進を図っている。今回は、OA とりわけ転換契約 (Read & Publish Agreements) に焦点を当てて、お話をいただいた。

メルボルン大学は、OA 原則¹¹を定め、近年、Council of Australian University Librarians¹² (以下、CAUL) を通じて、多数の出版社と転換契約を締結している¹³。

2023年における転換契約の状況^{14 15}は、次の通りである。

- ・ 出版本数の上限がなく、ハイブリッド OA ジャーナルとフル OA ジャーナルのいずれをもカバーしている契約が 7 件
- ・ 出版本数の上限がなく、ハイブリッド OA ジャーナルのみをカバーしている契約が 6 件
- ・ 出版本数の上限があり、ハイブリッド OA ジャーナルとフル OA ジャーナルのいずれをもカバーしている契約が 1 件
- ・ 出版本数の上限があり、ハイブリッド OA ジャーナルのみをカバーしている契約が 5 件
- ・ これら 19 件の契約で、メルボルン大学の論文出版本数のうち、40% をカバーしている。(2022 年は、12 件で 25% であった。)
- ・ 1 件を除いて、CAUL が主体となって契約を締結している。

出版本数の上限があり、ハイブリッド OA ジャーナルのみをカバーしている契約のうち、例えば、Elsevier 社との契約は、対象誌が 237 誌に限定され、Taylor & Francis 社との契約は、対象誌が 348 誌に限定されている。これについて、筆者らは、転換契約の対象誌が限定されていると、研究者からの APC (Article Processing Charge、論文処理費用) 免除の申請を受付ける手続を行う際に、図書館職員の業務上の負担が大きいのではないかと疑問を持ち、質問をした。回答は、CAUL が主体となって契約を締結しており、研究者からの APC 免除の申請を受付ける手続を行うのも、各大学図書館ではなく CAUL であるため、図書館職員の業務上の負担は生じないとのことであった。日本における JUSTICE (大学図書館コンソーシアム連合) と、オーストラリアにおける CAUL の役割の相違の現れであろう。

2.4. 東アジアコレクション¹⁶

Xiaoju Liu 氏 (Senior Librarian, Chinese and Asian Studies) がお話をして下さいました。

メルボルン大学図書館の東アジアコレクションは、南半球における最大規模の東アジアコレクションの 1 つである。

ベイルー図書館の Reading Room に、2 万点以上の貴重資料が所蔵されており、ERC Library に、10 万点以上の貸出可能な資料が所蔵されている。

東アジアコレクションの 90% が中国語の資料であり、10% が日本語、韓国語の資料とのことである。

10 Open Scholarship - University of Melbourne Library <https://library.unimelb.edu.au/open-scholarship> (最終閲覧日 2023 年 8 月 4 日)

11 Principles for Open Access to Research Outputs at Melbourne - University of Melbourne Library <https://library.unimelb.edu.au/open-scholarship/principles> (最終閲覧日 2023 年 8 月 4 日)

12 Council of Australian University Librarians <https://www.caul.edu.au> (最終閲覧日 2023 年 8 月 4 日)

13 Open Access Publishing - University of Melbourne Library <https://library.unimelb.edu.au/open-scholarship/open-access-publishing> (最終閲覧日 2023 年 8 月 4 日)

14 2023 Open Access Publishing Agreements at the University of Melbourne <https://vimeo.com/805410683> (最終閲覧日 2023 年 8 月 4 日)

15 脚注 14 のテキスト版: Open Scholarship at the University of Melbourne, Dr Zachary Kendal, Scholarly Communications Consultant, University of Melbourne https://library.unimelb.edu.au/_data/assets/word_doc/0007/4557967/2023-OAPA-transcript.docx (最終閲覧日 2023 年 8 月 4 日)

16 East Asian - University of Melbourne Library <https://library.unimelb.edu.au/asc/collections/east-asian> (最終閲覧日 2023 年 8 月 4 日)

貴重資料は、17世紀から21世紀にわたる、多分野、多形態の資料で構成されている。その一部は、電子化され公開されている¹⁷¹⁸。また、貴重資料を活用した、Object-Based Learning¹⁹という学習支援も行われている。

貸出可能な資料は、主に人文社会科学分野の図書や定期刊行物で構成されており、オンライン資料も含んでいる。

2.5. バイラー図書館の設備

Andy Hurt 氏 (Senior Librarian, Library Services and Spaces) が案内をして下さった。

バイラー図書館²⁰²¹は、地上4階地下1階の建物で、近年改装したばかりである。閲覧席、学習個室、ラーニングコモンズ、展示スペース等を備えているのはもちろん、利用者が動画の撮影や音声の録音を行うことができるように、スタジオまでも備えている。

豊富な設備のなかで、とりわけ筆者らの関心を引き付けたのは、障害者用個室である。障害のある利用者が、自身の必要に応じて環境を変えられるような柔軟性をもたせるために、障害者用個室は、多様な照明を備えたり、遮光や防音のためのカーテンを取り付けたり、テーブルの天板を明るいのからナチュラルな木目調のものに変更したりしたとのことである。障害のある利用者は、障害者用個室の利用予約²²の際に、机の高さの変更等の依頼を行うことができるし、必要に応じて、照明を調節したり、カーテンを使用したりできる。



図3 レファレンスエリア

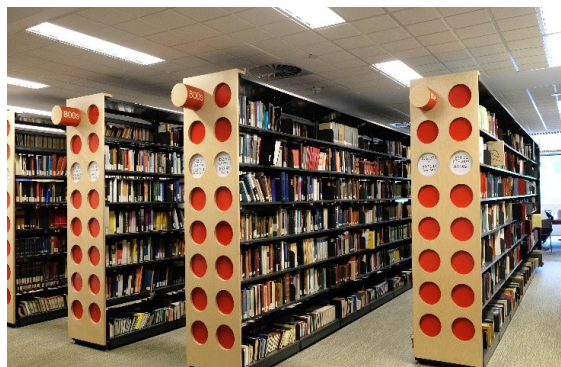


図4 色分けされた書架



図5 学習室

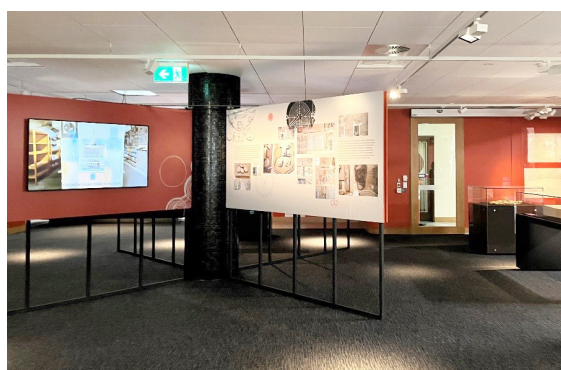


図6 Noel Shaw Gallery

17 East Asian Images - University of Melbourne Library <https://library.unimelb.edu.au/asc/collections/east-asian/collection-images> (最終閲覧日2023年8月4日)

18 Rare East Asian Collection - University of Melbourne Library <http://hdl.handle.net/11343/295058> (最終閲覧日2023年8月4日)

19 Teaching and Learning - University of Melbourne Library <https://library.unimelb.edu.au/asc/teaching-and-learning#obl> (最終閲覧日2023年8月4日)

20 Baillieu Library - University of Melbourne Library <https://library.unimelb.edu.au/baillieu#about-the-baillieu> (最終閲覧日2023年8月4日)

21 BAILLIEU Library Floorplan https://library.unimelb.edu.au/__data/assets/pdf_file/0009/2933739/Baillieu_Library_floorplans_all.pdf (最終閲覧日2023年8月4日)

22 If you're a student with a disability, here's how we can help - University of Melbourne Library https://library.unimelb.edu.au/students_with_a_disability (最終閲覧日2023年8月4日)



図7 レコーディングスタジオ外観



図8 レコーディングスタジオ内観

3. ビクトリア州立図書館 (State Library Victoria)²³

3月1日、ビクトリア州立図書館を訪れ、館内を見学した。



図9 ビクトリア州立図書館正面玄関と創立者の1人・Redmond Barryの銅像

3.1. 概要

ビクトリア州立図書館は1854年に設立されたオーストラリア最古の公共図書館である²⁴。書籍の蔵書数は250万冊、写真資料等の所蔵数は125万点、電子資料の所蔵数は185万点、年間の来館者数は83万人にのぼる²⁵。新型コロナ禍前の2018年時点では来館者数は年間200万人を超え、世界で4番目に利用者が多い図書館として紹介されたこともある²⁶。

また、オーストラリア国内で最初の法定納本図書館でもあり、現在でもビクトリア州の図書館法により、州内の出版物のほとんどは国立図書館と並行してビクトリア州立図書館にも納本するよう

²³ State Library Victoria <https://www.slv.vic.gov.au> (最終閲覧日2023年8月4日)

²⁴ History and vision | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/about-us/history-and-vision> (最終閲覧日2023年8月4日)

²⁵ すべて2021年時点の統計。Library Board of Victoria Annual reports 2021-22 https://www.slv.vic.gov.au/sites/default/files/FINAL_2021%E2%80%9322%20Library%20Board%20of%20Victoria%20Annual%20Report_1_0.pdf (最終閲覧日2023年8月4日)

²⁶ Emily Temple, The 12 Most Popular Libraries in the World (May 10, 2018) - LITERARY HUB <https://lithub.com/the-12-most-popular-libraries-in-the-world/> (最終閲覧日2023年8月4日)

義務付けられている^{27 28}。

メルボルン市内中心部に位置し、碁盤の目のように整備された200m×100mほどの区画を1ブロック占有している。道を挟んで西には市内を代表する巨大なショッピングモールが、北には工科大学が並ぶ立地もあってか、正面玄関前の広場は芝生でくつろぐ人々やストリートミュージシャン、パフォーマーで賑わい、街のシンボルとして市民に親しまれている印象を受けた。

建物は設立当時の建築を残しつつ増改築を繰り返しており、その美しい佇まいから観光雑誌等で「世界で最も美しい図書館」として紹介され、観光名所としての人気も高い。訪問時には筆者らのような図書館関係イベントへの参加者の他にも、館内で足を止め、写真撮影をする観光客の姿が多く見られた。

3.2. サービスについて

資料の収集・保存を旨としたレファレンスライブラリーとしての役割を掲げており、来館利用者による資料の貸出はできない²⁹。しかし、館外からの電子リソース利用、多種多様な施設利用、レファレンスサービス、州内・国内へのILLほか、サービス内容は多岐にわたる。

ビクトリア州在住者は誰でもオンラインフォームから無料で利用登録が可能であり、登録すると電子リソースの利用、各施設の利用、所蔵資料の来館利用予約や複写依頼、オンラインでのレファレンス依頼等が可能になる。

さらに、別途料金を支払い、追加サービスを受けられるメンバーシッププラン³⁰も提供されている。児童向けのホリデープログラムや家族向けイベントへの参加権の付いた家族会員プラン、学生専用エリアへの入室や専用のセミナー等が含まれる学生会員プラン、専用ラウンジや展示への招待、バックヤードツアーが含まれる文化会員プラン等、それぞれに特色がある。各プランは自分で加入する以外にプレゼントとしての購入も可能で、館内の書店やカフェ、駐車場等の優待サービスも付帯しており、ヘビーユーザーには魅力的である。

3.3. 施設について^{31 32 33}

設立当初からの建物に加え、同州の文化施設として併設されていた美術館や博物館、かつての中庭までも増床して閲覧室に作り替えて統合する等、増改築を繰り返し、現在は24棟の建物の集合体で構成されている^{34 35}。以下に特徴的なエリアを紹介する。

3.3.1. The Quad³⁶

正面ロビーを通して美しい大理石の階段とステンドグラスに囲まれたエリアを抜け、最初に入るのが図書館機能の中核であるThe Quadエリアである。ビクトリア州立図書館のシンボルであるLa Trobe Reading Roomの真下にあり、明るく現代的な内装の八角形のホールにインフォメーションセンターが設置されている。館内案内を担うカウンターのほか、検索用の端末や電源付きの座席が並

27 メレディス・バッテン、オーストラリアにおける納本制度－紙からデジタルへ（2018年7月11日）https://www.ndl.go.jp/jp/event/events/180711_batten_lecture_jp.pdf（最終閲覧日2023年8月4日）

28 Legal deposit | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/help/copyright-legal-deposit/legal-deposit>（最終閲覧日2023年8月4日）

29 Using the Library's collections | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/search-discover/our-collections/using-librarys-collections>（最終閲覧日2023年8月4日）

30 Membership | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/membership>（最終閲覧日2023年8月4日）

31 The history of our building | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/visit/history-our-building>（最終閲覧日2023年8月4日）

32 Building timeline | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/visit/history-our-building/building-timeline>（最終閲覧日2023年8月4日）

33 Take a virtual tour of the Library | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/stories/take-virtual-tour-library>（最終閲覧日2023年8月4日）

34 Library map | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/visit/library-map>（最終閲覧日2023年8月4日）

35 Our magnificent spaces | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/visit/our-magnificent-spaces>（最終閲覧日2023年8月4日）

36 The Quad | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/visit/our-magnificent-spaces/quad>（最終閲覧日2023年8月4日）

び、ノート PC を持ち込んで作業をする利用者で賑わっていた。室内には予約制で利用が可能な閲覧用 PC も設置されている。

壁面八辺のうちの四辺がガラス張りとなっており、それぞれが特徴的な4つのコンセプトエリアに繋がっている。グループワークや授業利用に特化した Create Quarter、イベント向けに大規模なスクリーン・照明・中継用機器等を設置した Conversation Quarter、スタートアップ企業や中小企業に向けたサポートサービスを提供しており、コワーキングスペースとしても利用可能な Ideas Quarter、12歳以下の児童向けに児童書コレクション・閲覧スペース・イベントコーナー・パズル等が配置された Pauline Gandel Children's Quarter である。

4部屋とも2019年に新設されたエリアで、以前はそれぞれ閲覧室、展示室等として利用されていた。かつて中庭だったエリアに床や屋根を増設することで形成されている。1800年代～1900年代までは外壁であった石造りの壁に囲まれ、現代的な什器や最新機器が並び、ガラス張りの天井からは自然光が差し込む。提供しているサービスも特徴的だが、空間としても大変ユニークである。

また、インフォメーションセンターにはポッドキャストの収録や楽器を持ち込んでのレコーディングも可能な機材を用意したスタジオスペースも設置されている³⁷。こちらも予約制で提供されており、市内の在住者であれば誰でも専用のレクチャーを受けることで利用できる。

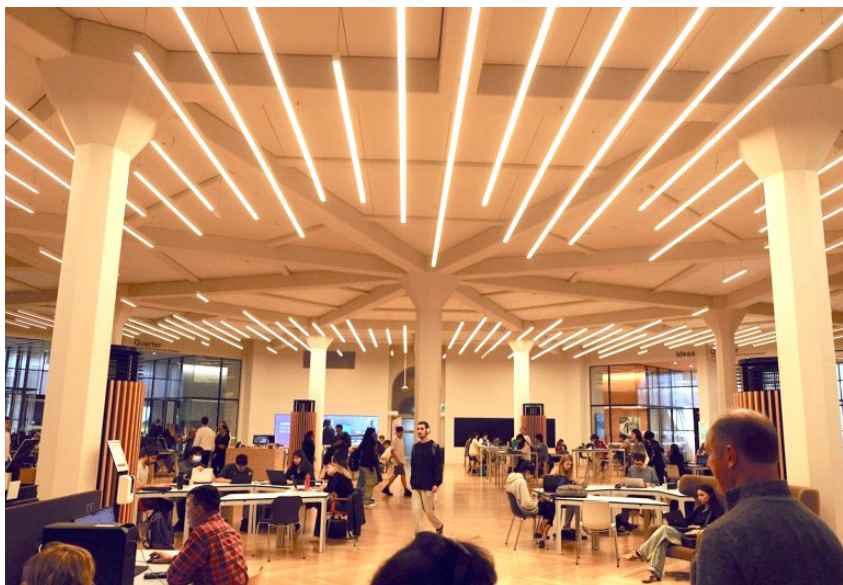


図 10 インフォメーションセンター

3.3.2. La Trobe Reading Room³⁸

このインフォメーションセンターの真上にある壮麗なホールが、La Trobe Reading Room である。ビクトリア州立図書館のシンボルで、メルボルン観光のガイドブックでも必ず紹介される名所である。6階建ての建物の天井までが吹き抜けとなっており、天窗から一際明るい光が差し込む。一段高い位置に設置された司書席を中心として放射状に閲覧席が配置され、歴史を感じさせる木製の閲覧席に緑色のランプシェードが輝く様子は圧巻である。ホールの直径、天井までの高さともに35mの広々とした空間で、100万冊以上の書籍と600人の利用者を収容できる。室内では、やはり多くの利用者がノート PC を持ち込んで作業をしており、歴史的な空間も現役の調査スペースとして機能している様子が窺われた。壁面書架にはオーストラリアン・コレクションが配架されており、使い込まれた一般書や比較的新しい資料も多く見られた。

吹き抜けを囲う各階の周囲は回廊となっており、この Reading Room を見下ろす展望室のほか、4階には Dome Galleries と称される展示スペースが設置されている。ここでは書籍の装丁や制作、イ

37 Book a studio | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/visit/services/book-studio> (最終閲覧日2023年8月4日)

38 La Trobe Reading Room | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/visit/our-magnificent-spaces/la-trobe-reading-room> (最終閲覧日2023年8月4日)

ラストレーションの歴史を紹介する常設展 World of the Book³⁹が開催され、州立図書館が所蔵する貴重資料のほか、一部他機関からも古典籍を借用し、毎年300点以上もの美しい資料を展示している。



図 11 La Trobe Reading Room



図 12 Dome Galleries

3.3.3. Redmond Barry Reading Room⁴⁰

赤い柱が特徴的な2階建てのホールで、La Trobe Reading Roomとはまた異なる趣がある。この建物は、過去には国立博物館として利用されていたが、その移転後2004年に改装され、閲覧室としてリニューアルオープンした。現在1階には書架のほか、レファレンスカウンターや検索・閲覧用の端末が設置され、2階吹き抜け沿いの回廊には書架と閲覧席が並ぶ。雑誌や新刊本等、一般資料が配架され、来館利用者向けの図書館らしい機能が集まるエリアとなっている。

隣接する Newspapers & Family History Reading Rooms⁴¹には新聞のバックナンバーや多数のマイクロ資料、家族史調査用の資料群が配架されている。室内にはマイクロ資料を保管するキャビネットが整然と並び、利用者は各自で探して閲覧することができる。マイクロリーダーやスキャン機器、大画面の読み込み用モニター等、閲覧用の機器類も充実している。

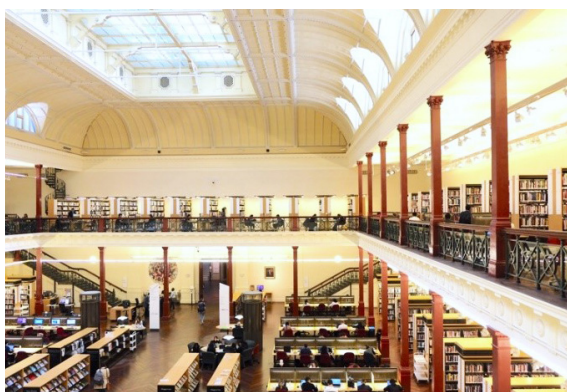


図 13 Redmond Barry Reading Room

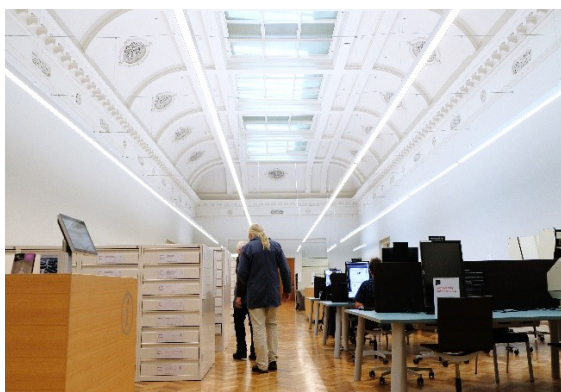


図 14 Newspapers & Family History Reading Rooms

4. メルボルン市立図書館 (City of Melbourne Libraries)⁴²

4.1. 概要

3月1日、メルボルン市立図書館の1つ City Libraryを訪れ、利用者然として館内を見学した。この City Library は、メルボルン市のシンボルであり観光の中心・フリンドースストリート駅のほど近くに位置し、市内各所に6館設置されているメルボルン市立図書館の中央館にあたる。コンパクト

39 World of the Book 2023 | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/world-of-the-book> (最終閲覧日2023年8月4日)

40 Redmond Barry Reading Room | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/visit/our-magnificent-spaces/redmond-barry-reading-room> (最終閲覧日2023年8月4日)

41 Newspapers & Family History Reading Rooms | State Library of Victoria <https://www.slv.vic.gov.au/visit/our-magnificent-spaces/newspapers-family-history-reading-rooms> (最終閲覧日2023年8月4日)

42 Libraries - City of Melbourne <https://www.melbourne.vic.gov.au/community/libraries/Pages/libraries.aspx> (最終閲覧日2023年8月4日)

トながら、ビクトリア州では州立図書館に次いで利用者の多い公共図書館であり⁴³、当然資料の貸出も可能である。CD 4,100点、DVD 3,600点、ゲームソフト400点と、書籍以外のコンテンツも数多く所蔵されている。

州立図書館が州の文化遺産や知識の集積・保存と提供、市民の知的探究に注力した図書館だとすれば、市立図書館は市民の生活に密着した図書館と言える。こちらも州立図書館と同様に、メルボルン市民だけでなく、ビクトリア州在住者であれば誰でも利用登録が可能である。

4.2. 施設・サービスについて

正面玄関はフリンダースストリート駅から1本ビジネス街側に入った人気エリア・フリンダースレーンに面し、周囲はオープンカフェや飲食店に囲まれている。ストリートの両側にはメルボルンらしい石造りの西洋建築が立ち並び、City Library も外壁はその形を留めているが、入口には自動ドアや返却ポストが設置され、内部も現代的に改装されている。

一般書、児童書、雑誌エリア等、市民図書館らしい構成だが、移民の国らしく多言語コーナーが充実しており、中国語資料、韓国語資料、ヒンドゥー語資料のほか、日本語資料も多数所蔵されている⁴⁴。

一般書エリアには日本語資料のみを集めたコーナーが設置されているほか、映像資料のうちアニメコーナーではその多くを日本語資料が占めていた。雑誌コーナーにも週刊少年ジャンプのカレント1年分のバックナンバーがひしめき、他にもファッション誌や料理雑誌等、日本で見慣れた雑誌も数多く購読されているようであった。



図 15 City Library エントランス

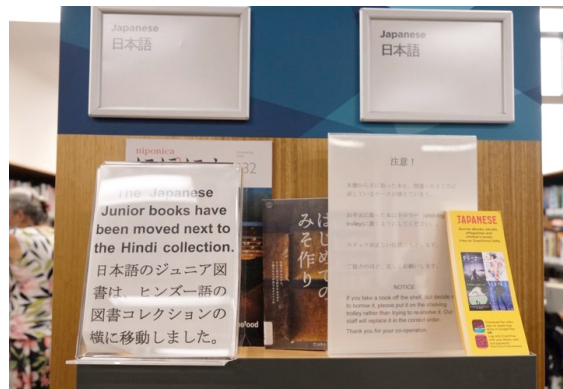


図 16 日本語資料コーナー。掲示物・配布物も日本語で作成されている。

また、ビデオゲームコーナーにはゲーム機が数種類設置されており、すぐそばに配架されているゲームソフトを自由にプレイすることができる。訪問時、館内の利用者はさほど多くはなかったがコーナーは満席で、ビデオゲームに興じる市民の姿が見られた。

市立図書館全体では専用のスマホアプリが開発・提供されているほか、公式のInstagram、YouTube、SoundCloud 等、ウェブ上の活動も活発である⁴⁵。今回訪問は叶わなかったが、分館各館にはレーザーカッター、3D プリンター、ミシン、はんだ付け用品等を備えたクラフトスペース (Makerspace) や、レコーディングスタジオも複数設置されており、それぞれに合わせた市民講座も定期的に関講されている。図書館という枠にとらわれず、市民の文化活動を支えるサービスが数多く提供されているようであった。

43 Locations and opening hours - City of Melbourne <https://www.melbourne.vic.gov.au/community/libraries/locations/Pages/locations.aspx> (最終閲覧日2023年8月4日)

44 Community languages - City of Melbourne <https://www.melbourne.vic.gov.au/community/libraries/finding-things/Pages/community-languages.aspx> (最終閲覧日2023年8月4日)

45 @MelbourneLibraries | Linktree <https://linktr.ee/MelbourneLibraries> (最終閲覧日2023年8月4日)



図 17 雑誌コーナーに並ぶ 1 年分の週刊少年ジャンプ



図 18 ビデオゲームコーナー

5. おわりに

今回の出張は、筆者らにとって、英語でコミュニケーションをとるとはどういうことかを痛感するとともに、本学にはない設備やサービスについて視野を広げることができる有意義なものであった。

筆者らの訪問を受け入れて下さった、Gwenda Thomas 氏 (Director, Scholarly Services)、Kylie Tran 氏をはじめとするメルボルン大学図書館の皆様、そして、長期の出張に快く送り出して下さった九州大学附属図書館の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



本著作の著作権は著者に帰属します。注があるものを除いて、本著作の内容物はクリエイティブ・コモンズ表示 - 非営利 - 改変禁止 4.0 国際 (CC BY-NC-ND 4.0) ライセンスの下に提供されています。
<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>